

第二回明治大学史資料センター企画展 モノクロ時代の明治大学

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 明治大学史資料センターグループ 公開日: 2015-04-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 鈴木, 秀幸, 阿部, 裕樹 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/17068

記録

第二回 明治大学史資料センター企画展

モノクロ時代の明治大学



会場エントランス

以下は、二〇〇八年六月九日から二九日まで、博物館特別展示室にて開催した、「モノクロ時代の明治大学」展の記録である。

本誌収録にあたり、アラビア数字を漢数字に改めた箇所がある。また、展示資料の全てを掲載しておらず、展示順と必ずしも一致していない。

(鈴木秀幸・阿部裕樹)

一 図録編

ごあいさつ

昭和三〇年代というべきか、一九五五年から一〇年間というべきかはともかく、この時期は戦後の日本にとって、ひとつの大きな記念すべき画期といってよい。

それは一言でいえば「モノクロ時代」というべきでしょう。色彩に例えれば郷愁を帯びたセピア色ではなく、また華麗なカラーでもありません。そこにある黒と白の対照からは夢と未来がかいまみえるようです。と同時に何か不信と不安がよぎることもありました。

この内訳を時間に照らせば、復興を目指した三〇年代はじめ、そして明確なビジョンを掲げて歩みはじめた中ごろ、それが一層広がるとともに紛争・公害などが指摘されはじめた後半といった区別や段階となるようです。

しかしいずれにしても、この時期は今日の日本・現在の私達の原点となったことは確かです。このモノクロ時代を明治大学、とくに学生を中心として素描することにつとめました。さまざまな想いと



1958（昭和33）年と2004（平成16）年の駿河台キャンパス

立場でご覧いただければ幸いです。

明治大学史資料センター

昭和30年代（1955—1964）の関係年表

（注、無印は明治大学でのできごと、☆印は一般事項をさす）

1955（昭和30）

5 第1次総合計画案成立

9・3 専任教員連合会によるスト宣言

☆10・13 社会党統一大会開催

☆11・15 保守合同（自由民主党成立）

☆この年「神武景気」・「家庭電化時代」開始

1956（昭和31）

☆3・19 10大学学長「文教政策の傾向に関する声明」発表

6・30 小川町校舎竣工（この前後より、校地買収・校舎

建設続く）

☆7・17 経済企画庁、第10回『経済白書』発表（「もはや

戦後ではない」）

☆10・22 文部省、大学設置基準制定

☆12・18 日本、国際連合加盟

1957（昭和32）

5 就職委員会発足

☆10・4 ソ連、初の人工衛星打上げ

1958（昭和33）

8 総合計画委員会発足

☆12・23 東京タワー完成

1959（昭和34）

12・3 維持費問題につき、大学・学生会共同声明

☆この年「岩戸景気」

1960（昭和35）

5・5 アラスカ学術調査（マッキンレー登頂）

6・16 教員・学生多数、安全保障条約反対デモ

☆6・19 新安保条約承認

☆9・10 NHK・民放、カラーテレビ放送開始

11・1 創立80周年記念式典

☆12・27 閣議、国民所得倍增計画決定（高度成長政策）

1961（昭和36）

1・9 学費値上げ声明書発表

1962（昭和37）

☆2・1 東京都、1000万都市（世界初）

3・27 維持費問題による学生処分決定

9・15 生田第1校舎工事完了

10・2 授業料値上反対の学生抗議集会開催

☆この年 大学文学部の女子学生比率37%（「女子学生亡国

論

1963 (昭和38)

10・24 学生会館運営、学生会・学苑会委任確認 (開館翌年9月)

☆11・22 ケネディ米大統領暗殺 (初の日米テレビ中継)

1964 (昭和39)

3・19 学生健康保険組合発足

☆4・28 日本、OECD正式加盟

5・30 生田学生寮にて水道費等不払運動発生

☆10・10 東京オリンピック開会

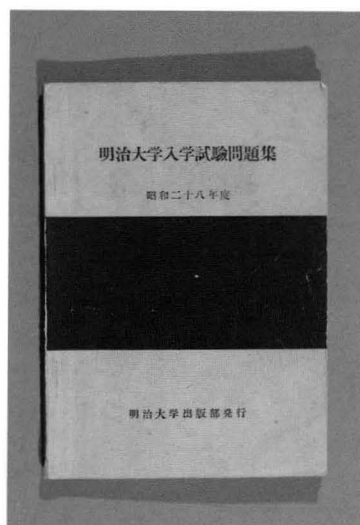
1 学業

本展示が対象としている昭和三〇年代は、敗戦後の混乱と再建に奔走した二〇年代と比べ、政治・経済・社会・文化等さまざまな分野で復興に向けて力強く邁進した時代といえよう。「三種の神器」(白黒テレビ、電気洗濯機、電気冷蔵庫)、「団地族」、「高速道路」、「新幹線」、「東京オリンピック」、「集団就職」等々、事実をあげたら切りがない。これらのことは、やはり「高度経済成長」の結果によるものといってもよい。

大学の世界においては、新制大学として事実上のスタートが切られるとともに年々、いわゆる「右肩上り」の傾向が顕著となる。そのために「駅弁大学」・さらには「女子学生亡国論」ということばまでが飛びかいながらも、多くの大学生たちにとって大学は勉強をする場という意識があった。

入試・入学

この昭和三〇年代は、高度経済成長、人口の大都市集中、生活水準の「向上」により高学歴志向が高まる。それに加え学卒者の社会分配政策も影響し、大学志願者が急増し、いわゆる「受験戦争」が開始された。



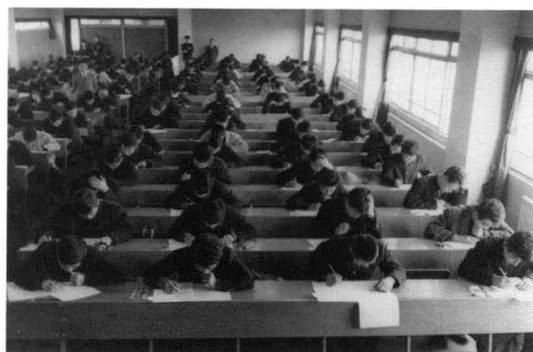
入学試験問題集
1953（昭和28）年



入試案内・ガイドブック
昭和30年代



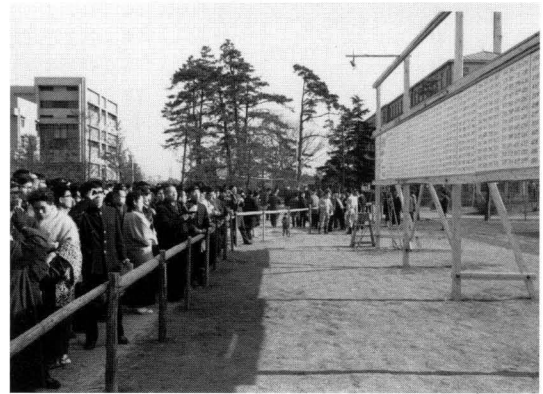
入試のようす
1961（昭和36）年



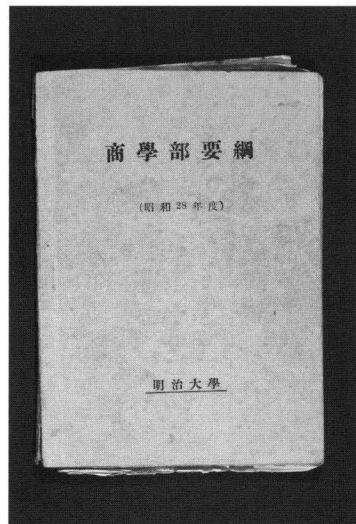
入試のようす
1961（昭和36）年



入学式
1961（昭和36）年



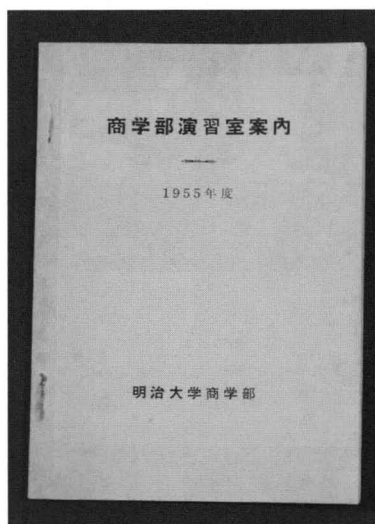
合格発表（和泉キャンパス）
1964（昭和39）年



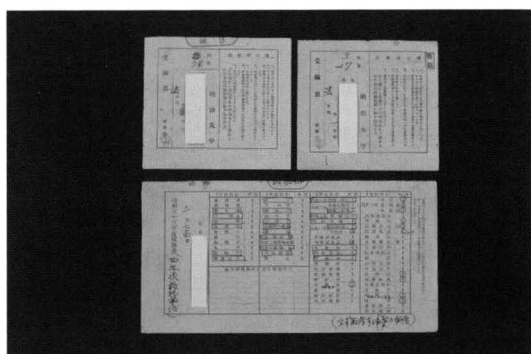
学部要綱
昭和30年代

講義

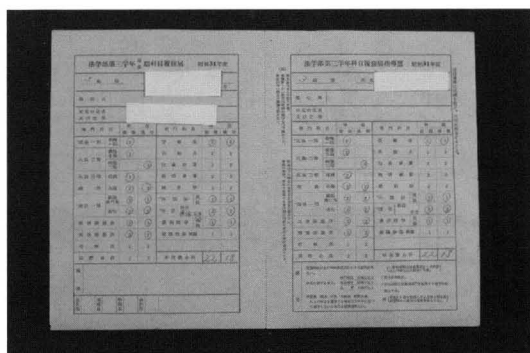
学生急増等、大学の大衆化・拡大に対応し、各大学は施設設備、とくに校舎の建築に着手する。明治大学も総合計画を策定、とくに教室の確保につとめる。「マスプロ教育」がさげばはじめたのも、この頃である。



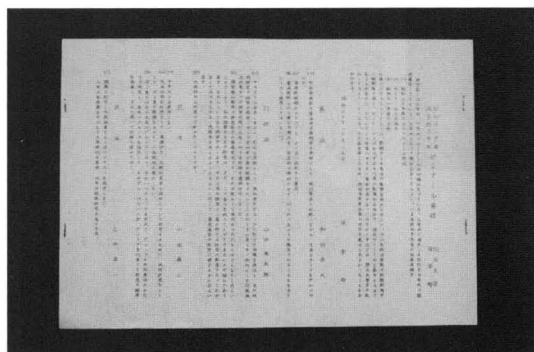
商学部演習室案内
1955（昭和30）年



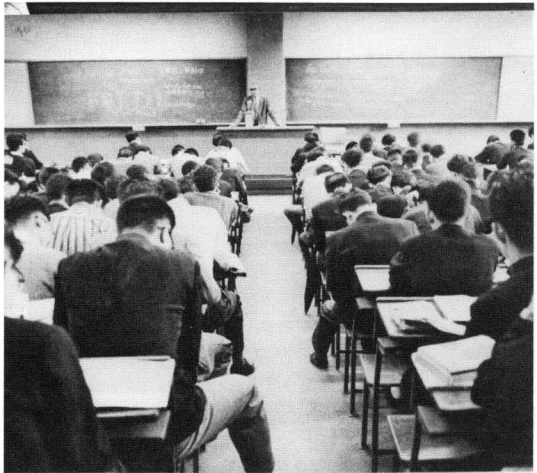
履修票・受験票
1958（昭和33）年



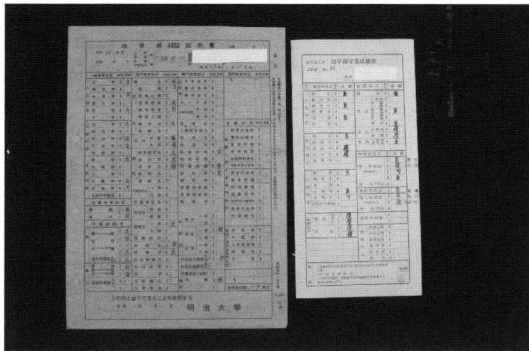
履修届
1956（昭和31）年



ゼミ案内資料
1955～1956（昭和30～31）年



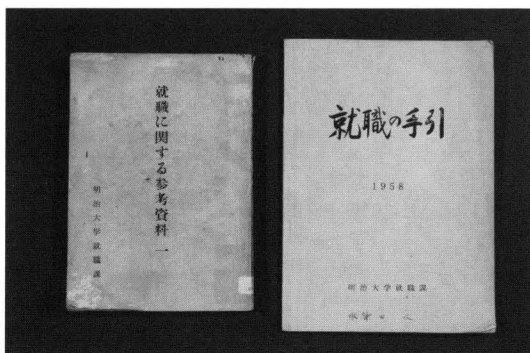
講義のようす
1965（昭和40）年



成績表
昭和30年代

卒業

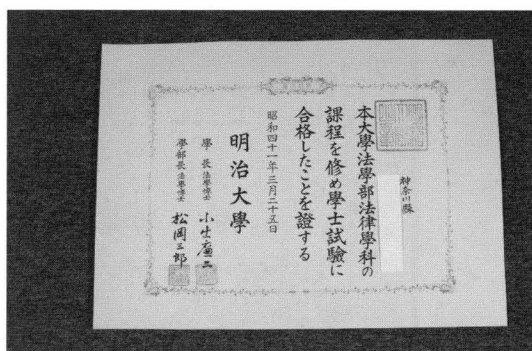
卒業生が急増したとはいえ、この時代はまだ学士号取得はひとつの大きな目的であり、手段でもあった。明治大学の卒業式は、昭和三年までは記念館講堂で行なわれていたが、三四年より東京都体育館になった。（ただし、三七、四〇年は駿河台の同講堂等）。



就職関係資料
1957～1958（昭和32～33）年



卒業式
1959（昭和34）年



卒業証書
1966（昭和41）年

2 自治

この時期、教育に対する管理は日増しに強化された。いわゆる「教育三法案」（地方教育行政の組織及び運営に関する法律案等）、教員勤務評定、学習指導要領の法的拘束力等々である。一方、そのことに対する反対闘争も激化していった。

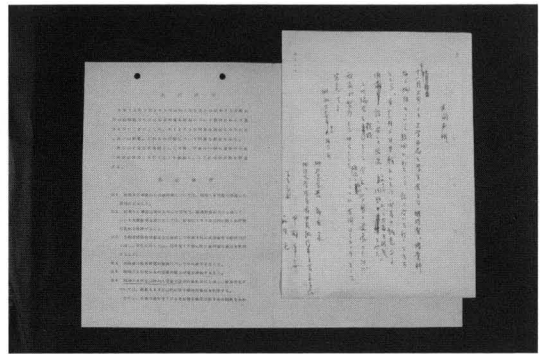
大学においても、政府による大学管理制度の改革に対して、反対の運動が展開された。

こうした中、明治大学では大学教職員と学生は、例えば日米安保条約問題の時には共闘して反対運動を強烈に推進することもあった。さらに混乱やまない学内の不正・不祥事に対し、浄化に向けて共に闘うこともあった。

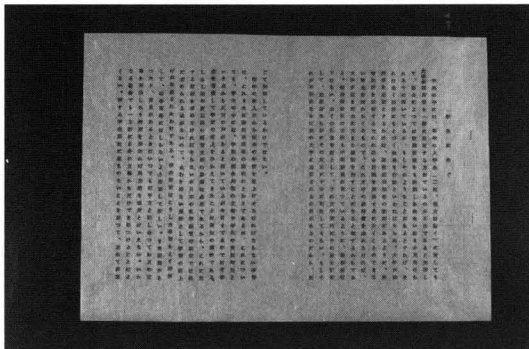
しかし、やがては自治会を中心とした学生と、管理的立場の役員・教職員とは激しく対決するようなことも目立つようになった。

維持費問題

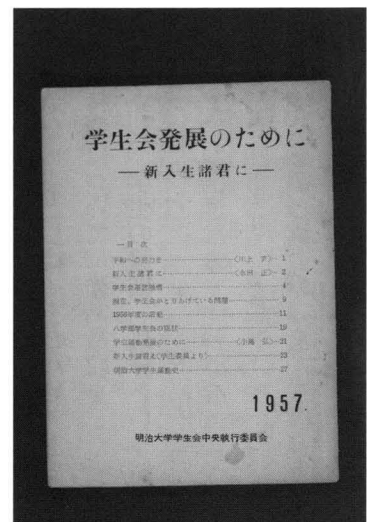
大学拡大にともなう総合計画、すなわち「大明治建設計画」は多大な資金を必要とした。そのため大学当局は、それまで任意としていた維持費について、強制徴収をした。そのことにより学生の自治会と対立し、学生の逮捕・処分という結果を招いた。



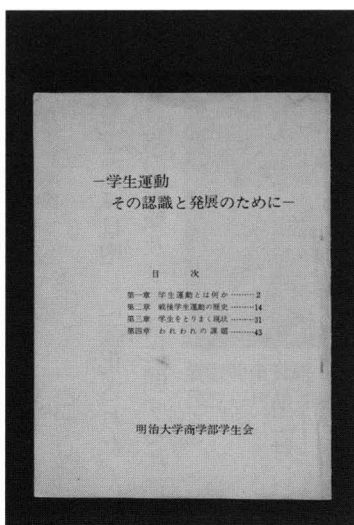
「共同声明」
1959（昭和34）年



「学生に告ぐ」（維持費問題）
1959（昭和34）年



「学生会発展のために」
1957（昭和32）年



「学生運動その認識と発展のために」
1956（昭和31）年



専教連関係新聞記事
1955（昭和30）年



専教連関係新聞記事
1955（昭和30）年

安保反対

日米安保条約調印は戦後最大の反対運動をまねき、ついには多くの死傷者を出した。本大学の学生自治会は「全学連」（全日本学生自治会総連合）に加盟、砂川闘争・勤務評定闘争など、学外闘争へも積極的に関与していった。

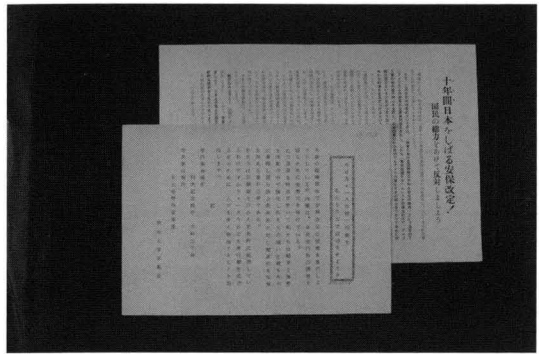
そうして、教授団も含めた大デモ隊が「安保反対」を掲げて国会に向ったのは昭和三五年六月一五日午後三時のことであった。



「タテカン」（和泉キャンパス）
1962（昭和37）年



学生運動のようす
1960（昭和35）年



安保反対ビラ
1959～1960（昭和34～35）年

3 サークル

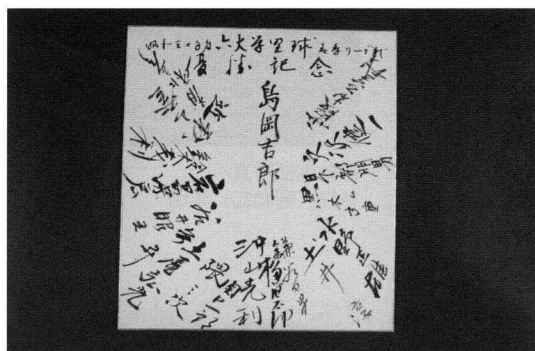
大学時代のサークル活動はその時だけではなく、その後の人生にとってもかけがえのない存在である。その活動は、この昭和三〇年代には一層活発化するとともに、一定の地位を占めるようになった。

例えば、再建された柔道部は昭和三十一年から全日本学生選手権において三連覇を果たした。野球部はいわゆる「秋山・土井時代」が続いており、無敵の状態であった。ホッケー部やバレー部は学生大会で常勝を続けた。

文科系サークルでは、二〇年代に復活したマンドリン倶楽部やハーモニカ・ソサエティ等々は多くの成果をあげ、全国的にその存在を知られるようになった。また学内浄化に向けて論陣をはった学生雑誌『駿台論潮』（同編集部）は第五二号で「学生商品論」により社会変革への「主体的な生き方」を主張した。



『駿台論潮』
昭和30年代



東京六大学野球優勝記念色紙
1955（昭和30）年



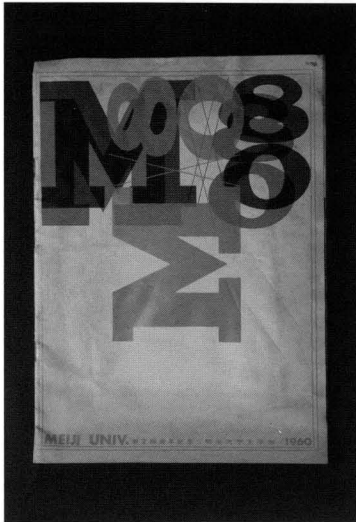
『駿台文学』
1954（昭和29）年



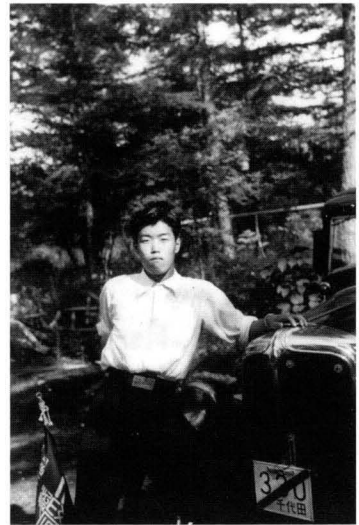
野球部応援風景
1956（昭和31）年



自動車部カーバッジ



学園祭パンフレット
1960（昭和35）年



自動車部写真
1955（昭和30）年頃

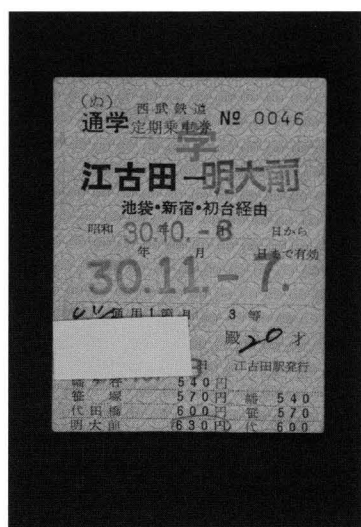


『文化の潮』
1953（昭和28）年

4 学生生活

昭和二〇年代と三〇年代の学生生活には、大きな相違が見出せる。それは端的にいえば、生活との戦いから楽しみへの変化である。すなわち食料不足、住宅難、アルバイト（時には「給血アルバイト」）等々に加えてデフレの追い打ち、それによる学費値上げが続く状況は、復興とともに、解消の傾向にあった。こうした学生生活の変化は、外見では服装をみれば顕著である。昭和三〇年前半までは、男子学生の場合、上下つめえり学生服（中には学生帽着用）であったが、じょじょに上着は今までのような学生服、ズボンはカラーのものへと変化している。

だが、受験戦争を突破した彼らにとって、かつてのような「ハングリー精神」（苦学）は少しずつではあるが薄れ、新たな人生観・価値観を見出せない者も見受けられ、学校当局は実態を調査したり、相談室を開設するなどした。



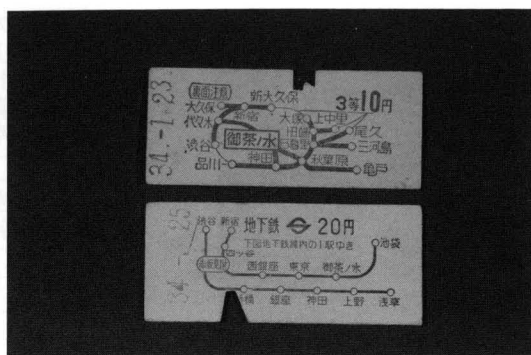
定期券
1955（昭和30）年



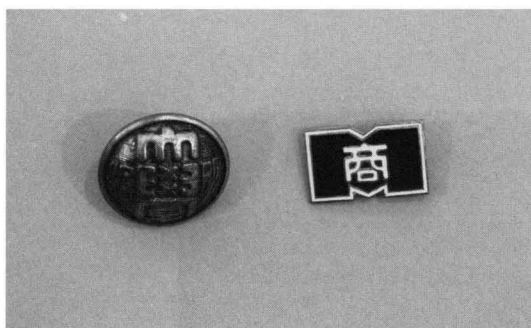
組合員証
1959（昭和34）年



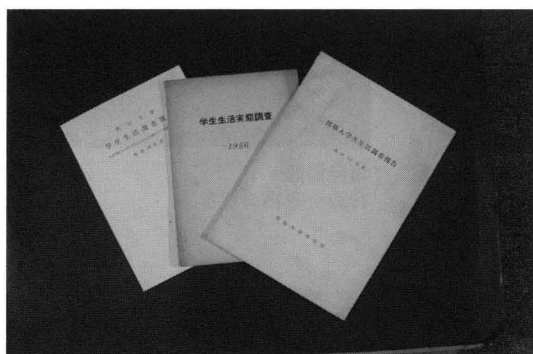
男子学生服



切符
昭和30年代



ボタン



学生生活調査資料
昭和30年代



記念写真
1955（昭和30）年



正門前
1956（昭和31）年



和泉キャンパス風景
1965（昭和40）年

5 学内環境

列品の駿河台航空写真（昭和三三年）を一覧すると、コンクリートによる建造物の間に、木造のものも多くみとめることができる。当時、都心部ですらそうであるので、郊外あるいは地方においては尚更であった。すなわち、この三〇年代は、手作りの木造から機械によるコンクリートへと変化する、はざかい期といってよいかもしれない。（モノクロ写真の強みである）。

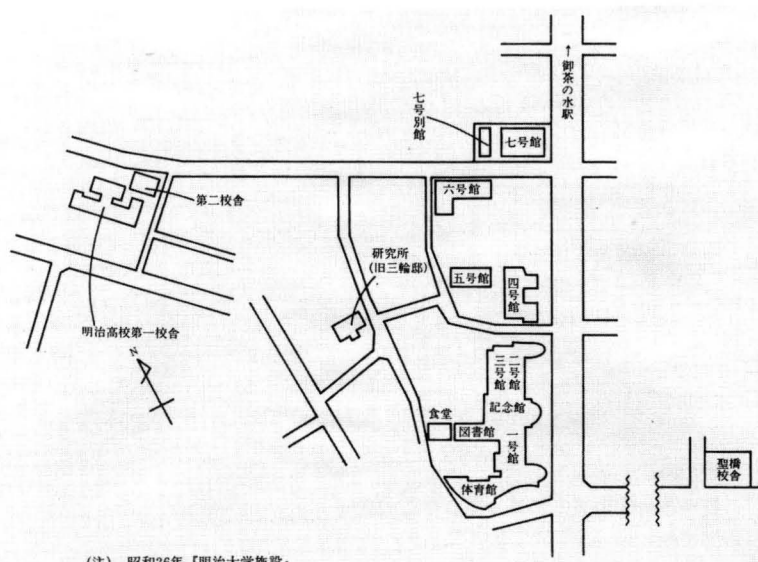
明治大学の場合もこの時期、総合計画により、次々と白色を基調とした斬進なデザインの校舎を新築していった。とはいえシンボリックな存在の駿河台記念館は厳然として君臨し、学生だけではなく教職員、卒業生さらには地域住民らの拠り所となっていた。

施設

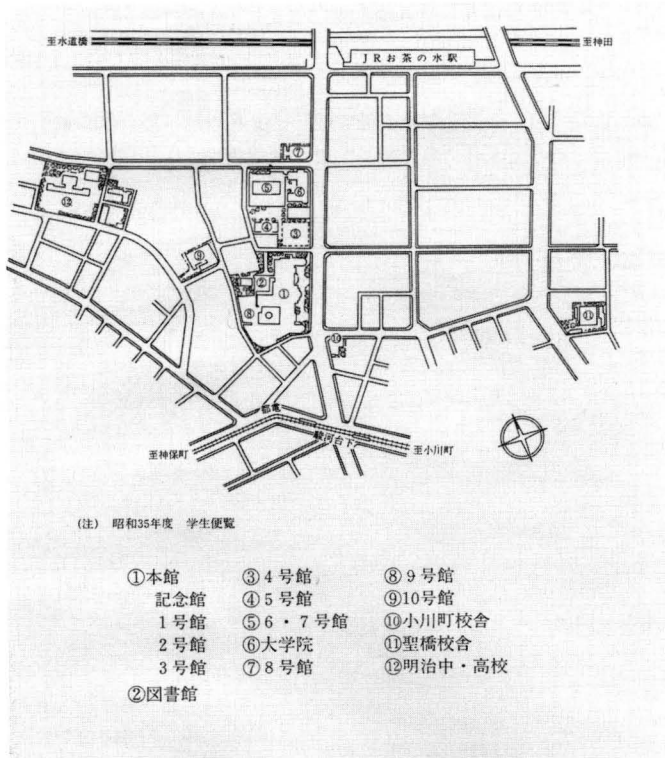
前記したように、学内の校舎新築が続いた。だが、記念館は、竣工（昭和三年・一九二八）と取り壊し（平成七年・一九九五）の間、つまり最盛期であった。また和泉校舎横を流れる玉川上水、旧陸軍施設の残る生田校舎はそのままであった。



記念館オルゴール
1962（昭和37）年頃



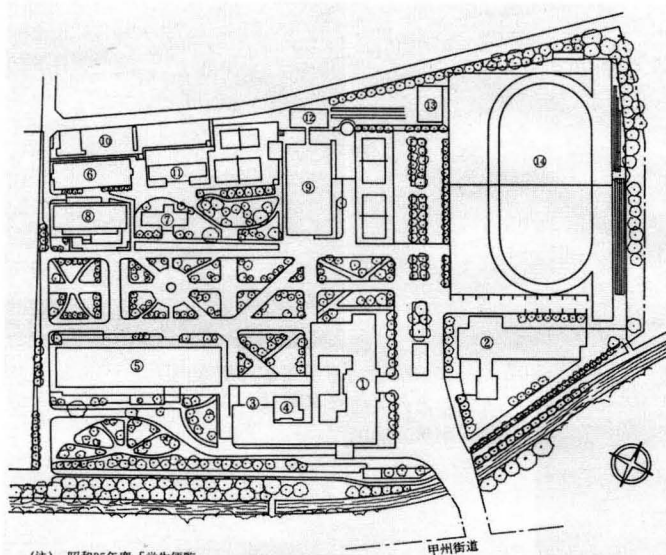
昭和26年 駿河台キャンパス校舎配置図



昭和35年 駿河台キャンパス校舎配置図

各キャンパス・施設拡充一覧

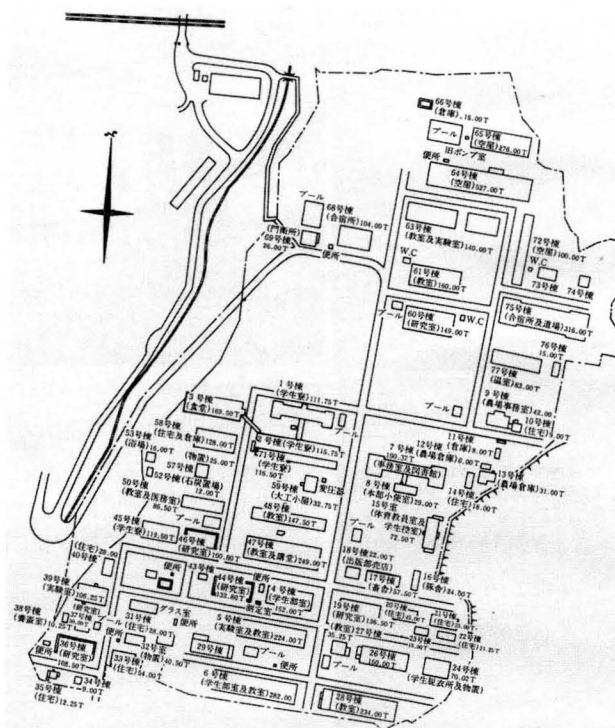
年 度	駿河台キャンパス	和泉キャンパス	生田キャンパス	そ の 他
昭和26年	5月 政経ビル（7号館）買収		2月 土地建物買収	6月 聖橋校舎購入
29年	4月 大学院棟完成			
30年	3月 9号館完成 山脇学園買収			
31年	6月 小川町校舎完成 9月 佐々木研究所買収（新図書館）	4月 総合体育館完成		
32年	（7月 駿河台ホテル買収交渉）			
33年	4月 新6・7号館完成			2月 エビスキャンプ 松下断念
34年	8月 図書館第一期工事完成	11月 図書館完成	3月 第一学生寮完成 10月 舎宿所用地購入	4月 明治高校新校舎完成 6月 調布野球場購入
35年	4月 三浦邸買収（11号館）	3月 学生会館完成 8月 第二校舎完成	7月 第一校舎第一期完成	
36年	6月 10号館完成			
37年			7月 第一校舎第二期完成	
38年	9月 5号館完成		4月 放牧場買収	
39年	9月 学生会館開設	9月 運動場買収	3月 第二校舎1号館完成 6月 第二校舎2号館完成	11月 聖橋校舎売却
40年	11号館完成	3月 第三校舎完成	3月 第二校舎3・4号館完成	



(注) 昭和35年度「学生便覧」

- | | | |
|-------|-------|------|
| ①本館 | ⑥4号校舎 | ⑪射撃場 |
| ②図書館 | ⑦6号校舎 | ⑫相撲場 |
| ③渡り廊下 | ⑧学生会館 | ⑬砂場 |
| ④食堂 | ⑨体育館 | ⑭運動場 |
| ⑤大教室 | ⑩弓道場 | |

昭和35年 和泉キャンパス校舎配置図

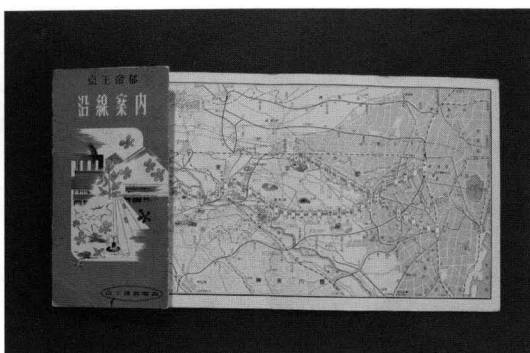


(注) 昭和二六年「明治大学生田校舎配置図」

昭和26年 生田キャンパス校舎配置図



学生会館工事
1956（昭和31）年



京王帝都沿線案内
昭和戦後



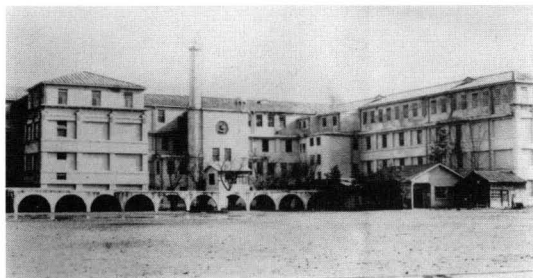
経営学部校舎
昭和30年代



3代目（旧）記念館
1953（昭和28）年



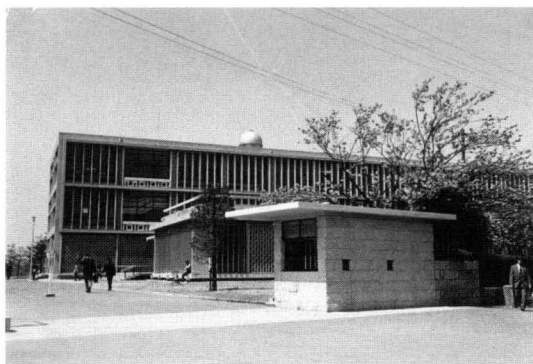
駿河台航空写真
昭和30年頃



和泉キャンパス
1956（昭和31）年



和泉キャンパス脇の玉川上水
1958（昭和33）年頃



和泉図書館
1959（昭和34）年



生田キャンパス
1956（昭和31）年



生田キャンパス
1963（昭和38）年

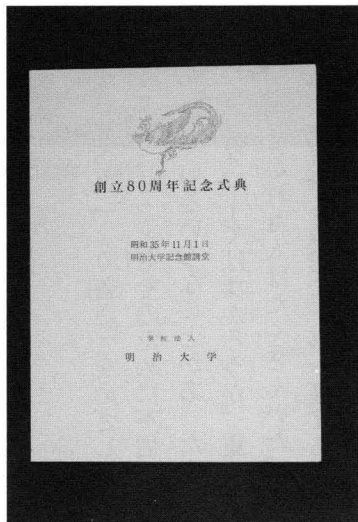


生田キャンパス
1963（昭和38）年

八〇周年

昭和三五年は本学が創立八〇周年を迎えた年であり、多くの行事が催された。また記念とする校舎も建設された。

とりわけ、十一月一日の記念式典には約一二〇〇名が集合、大々的な祝賀式が催された。また大学ではアラスカ調査団を派遣、マツキンレー登頂にも成功した。なお、こうした式典や行事には多くの学生も出席・参加をした。



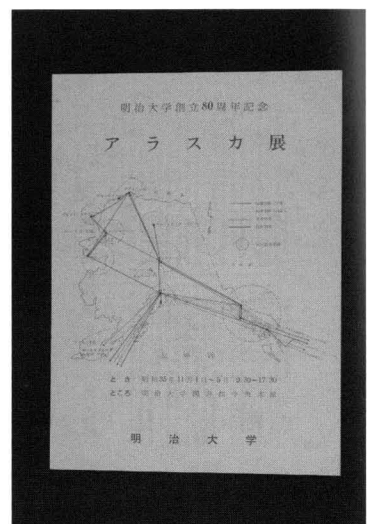
創立80周年記念式典次第
1960（昭和35）年



創立80周年記念ペナント
1960（昭和35）年



創立80周年記念映画フィルム
1960（昭和35）年



創立80周年アラスカ調査関係資料
1960（昭和35）年前後

6 学外事情

昭和三〇年代は、次から次へと「より善さ」をめざしてダイナミックに走り続けたといえよう（もっともそのために不信・不安、そして不満も発生しはじめた）。いろいろなことがあった中、この年代のシンボルは、やはり東京タワーではなからうか。東京タワーを観ること、のぼることにあこがれた人はたくさんいた。またラジオ、やがては白黒テレビから流れる放送に一喜一憂する人も少なくなかった。歌謡曲、ドラマ、スポーツ実況等々見たい聞きたい番組ばかりであった。またこの頃、週刊誌も急速に購読者を増加させた。

そして、このころ受験雑誌『蛍雪時代』、ラジオ放送『大学受験講座』で大学入学をめざした人も少なくなかったはずである。

東京オリンピック

東京オリンピックは昭和三九年一〇月一〇日から一五日間にわたって開催されたのであるが、まさしくこの三〇年代総仕上げというべき出来事であった。

国家威信をかけたこの大イベントのため、東海道新幹線をはじめとして交通運輸の拡大整備が推進され、また建築物の建替えもなされていった。



東京オリンピックを伝える新聞
1964（昭和39）年



オリンピック役員への感謝状
1964（昭和39）年



昭和30年代雑誌

芸能・マスコミ

この時代、多くの人々は映画館に足を運んだ。家庭では、番組支配権を持つことが多かったラジオそして白黒テレビを視聴した。

古賀政男（明大卒）、原節子、三橋美智也、長島茂雄・王貞治、美空ひばり等々スターの名前はとめどもなく続く。



レコード（古賀政男）



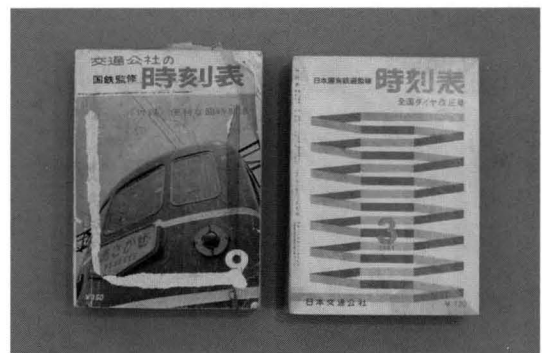
レコード（明治大学の歌）

東京さまざま

昭和三〇年代の建物・交通・生活用品・嗜好品等について、取り上げたきりが無い。そして人々はそのメッカともいうべき、東京にここがれた。そのため時刻表や東京案内のパンフレットが普及し、東京遊覧も盛んに行なわれた。そして明治大学はその真只中にあったのだ。



レコード（流行歌）



時刻表
昭和30年代



はとバスポスター
昭和戦後



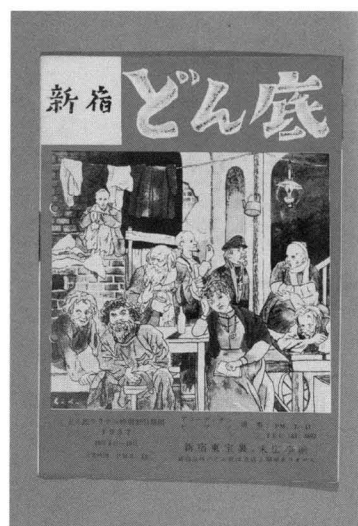
昭和30年代の東京地図



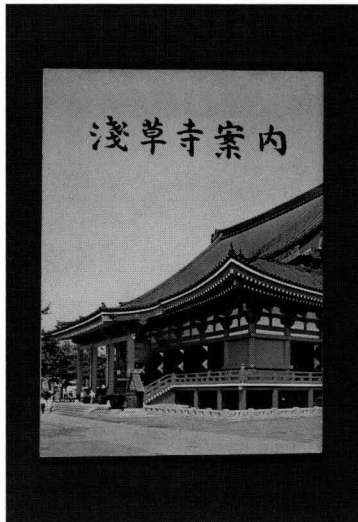
はとバス資料



「琥珀」「らんぶる」パンフレット
昭和30年代



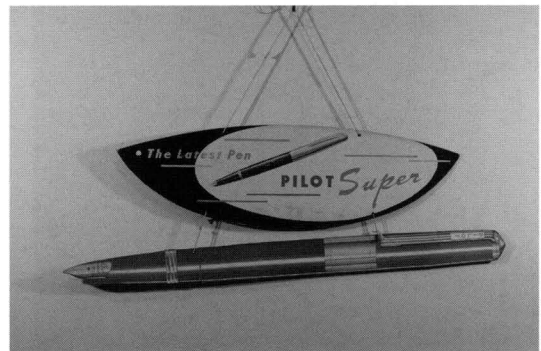
映画「どん底」パンフレット
1957（昭和32）年



浅草寺資料

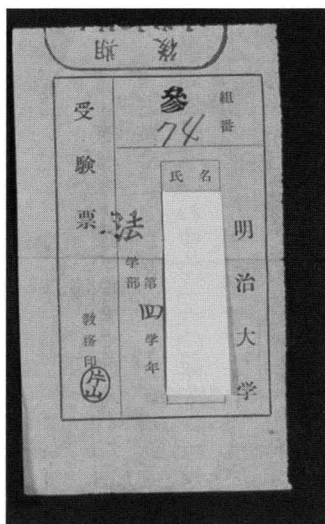


東京タワー資料

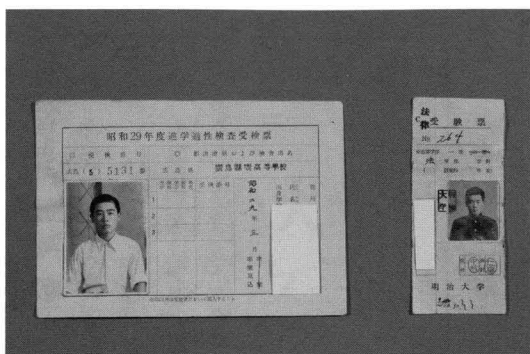


パイロット万年筆店頭吊り飾り

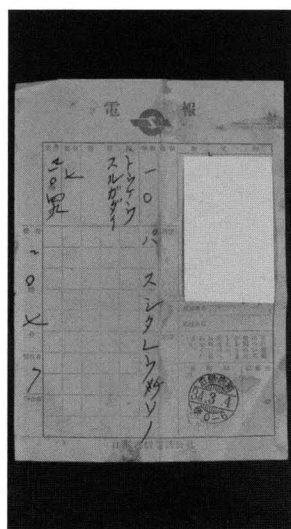
(追加資料)



入試受験票
1954（昭和29）年



進学適性検査受験票
1954（昭和29）年



卒業を知らせる電報
1959（昭和34）年



定期試験受験票
1959（昭和34）年

お礼のことば

ご観覧ありがとうございました。この昭和三〇年代の明治大学、そして学園生活でもさまざまなことがありました。専教連改革、学生数の増大、施設設備の拡充、いわゆる「六〇年安保」反対運動、維持費問題、サークル活動の活発化等々です。それはまさしく高度成長、所得倍増、電化製品や自動車の普及に比例・上昇するようでした。

しかし一方、じよじよに問題や課題がふき出しはじめたのも事実でした。とはいえ「より善さ」を求め、力強く歩もうとしていたことは否定できないと思います。

今回の展示により、私達は明確な結論を出すことはできませんでしたが、今後の社会や人生のためのひとつの大きな手がかりを得ていただければうれしく思います。

なお、本展覧会は校友の鎌田智氏、川田明義氏、山内英司氏をはじめ、多くの方々の受贈資料により成りました。心よりお礼申し上げます。

明治大学史資料センター



アカデミーコモンに掲げられた懸垂幕

第2回 明治大学史資料センター企画展

モノクロ時代の明治大学 —昭和30年代キャンパス—

会期 2008年6月6日(金)～6月29日(日)

会場 明治大学博物館特別展示室

ごあいさつ

昭和30年代というべきか、1955年から10年間というべきかはともかく、この時期は戦後の日本にとって、ひとつの大きな記念すべき画期といってよい。

それは一言でいえば「モノクロ時代」というべきでしょう。色彩に例えれば憂愁を帯びたセピア色ではなく、また華麗なカラーでもありません。そこにある黒と白の対照からは夢と未来がこみあみえるようです。と同時に何か不信と不安がよぎることもありました。この内訳を時間に照らせば、復興を目指した30年代はじめ、そして明確なビジョンを掲げて歩みはじめた中ごろ、それが一層広がるとともに紛争・公害などが指摘されはじめた後半といった区別や段階となるようです。

しかしいずれにしても、この時期は今日の日本・現在の私達の原点となったことは確かです。このモノクロ時代を明治大学、とくに学生を中心として素直することにつとめました。さまざまな想いと立場でご覧いただければ幸いです。

明治大学史資料センター

明治大学史資料センター

「モノクロ時代の明治大学」 2

展示資料一覧

		資 料 名	年
学 業	入試・入学	入学案内・ガイドブック	昭和30年代
		入学試験問題集	1953 (昭和28) 年
		入試のようす	1961 (昭和36) 年
		入試のようす	1961 (昭和36) 年
		合格発表(和泉キャンパス)	1964 (昭和39) 年
		入学式	1961 (昭和36) 年
	講義	学部便覧・要綱	昭和30年代
		履修票 受験票	1958 (昭和33) 年
		商学部演習室案内	1955 (昭和30) 年
		履修届	1956 (昭和31) 年
		ゼミ案内資料	1955～1956 (昭和30～31) 年
		講義のようす	1965 (昭和40) 年
	卒業	成績表	昭和30年代
		就職関係資料	1957～1958 (昭和32～33) 年
		卒業式	1959 (昭和34) 年
		卒業証書	1966 (昭和41) 年
自 治	維持費問題	「共同声明」	1959 (昭和34) 年
		「学生に告ぐ」(維持費問題)	1959 (昭和34) 年
		「学生会発展のために」	1957 (昭和32) 年
		「学生運動その認識と発展のために」	1956 (昭和31) 年
		専教連関係新聞記事	1955 (昭和30) 年
		専教連関係新聞記事	1955 (昭和30) 年
		「タテカン」(和泉キャンパス)	1962 (昭和37) 年
		安保反対ビラ	1959～1960 (昭和34～35) 年
	安保反対	学生運動のようす	1960 (昭和35) 年
	サークル	『舞台輪潮』	昭和30年代
		『舞台文学』	1954 (昭和29) 年
		東京六大学野球優勝記念色紙	1955 (昭和30) 年
		野球部応援風景	1956 (昭和31) 年
		自動車部カーバッジ	
		自動車部写真	1955 (昭和30) 年頃
		学園祭パンフレット	1960 (昭和35) 年
	学生生活	『文化の潮』	1953 (昭和28) 年
		組合員証	1959 (昭和34) 年
		定期券	1955 (昭和30) 年
		切符	昭和30年代
		男子学生服・ボタン等	
		学生生活調査資料	昭和30年代
		記念写真	1955 (昭和30) 年
		正門前	1956 (昭和31) 年
		和泉キャンパス風景	1965 (昭和40) 年

明治大学史資料センター

		資 料 名	年
学 内 環 境	施 設	記念館オルゴール	1962 (昭和37) 年頃
		各キャンパス・施設拡充一覧	
		昭和26年駿河台キャンパス校舎配置図	1951 (昭和26) 年
		昭和35年駿河台キャンパス校舎配置図	1960 (昭和35) 年
		昭和35年和泉キャンパス校舎配置図	1960 (昭和35) 年
		昭和26年生田キャンパス校舎配置図	1951 (昭和26) 年
		京王帝都沿線案内	昭和戦後
		学生会館工事	1956 (昭和31) 年
		経営学部校舎	昭和30年代
		3代目(旧)記念館	1953 (昭和28) 年
		駿河台航空写真	昭和30年頃
		和泉キャンパス	1956 (昭和31) 年
		和泉キャンパス脇の玉川上水	1958 (昭和33) 年頃
		和泉図書館	1959 (昭和34) 年
		生田キャンパス	1956 (昭和31) 年
	80 周年	生田キャンパス	1963 (昭和38) 年
		生田キャンパス	1963 (昭和38) 年
		創立80周年記念ベナント	1960 (昭和35) 年
		創立80周年記念式典次第	1960 (昭和35) 年
		創立80周年アラスカ調査関係資料	1960 (昭和35) 年前後
学 外 事 情	オリ ン ピ ッ ク	創立80周年記念映画フィルム	1960 (昭和35) 年
		東京オリンピックを伝える新聞	1964 (昭和39) 年
		オリンピック役員への感謝状	1964 (昭和39) 年
	マ ス コ ミ ・ 芸 能	昭和30年代雑誌	
		レコード (古賀政男)	昭和30年代
		レコード (明治大学の歌)	1962 (昭和37) 年
		レコード (流行歌)	昭和30年代
	東 京 さ ま ざ ま	時刻表	昭和30年代
		はとバス資料	昭和戦後
		昭和30年代の東京地図	
		映画「どん底」パンフレット	1957 (昭和32) 年
		「琥珀」「らんぶる」パンフレット	昭和30年代
		東京タワー資料	
		浅草寺資料	
		パイロット万年筆店頭吊り広告	